

北海道留萌高等学校 教頭 菅原 和幸

1 本校の概要

本校は、平成三十年度の学校統合により3学科6間口（普通科単位制4、電気・建築科1、情報ビジネス科1）を有する新生「北海道留萌高等学校」として開校しました。留萌高校は大正十三年に開校し、創立から九十五年を迎える地域の伝統校として、留萌千望高校は二十年間にわたり、2学科を有する専門高校として、それぞれの歩みを続けてきました。これまでの両校での特色ある教育活動や伝統という足跡を大切に引き継ぎつつ、新たなスタートを切ったところです。



第1回 留萌高校学校祭

2 地域連携教育実践の推進

本校は、北海道教育委員会「高等学校OPENプロジェクト」の研究指定校として、「ビジネスの手法・ものづくりの技術を用いた地域課題の解決」をテーマに、

地域連携教育実践を行っています。

留萌管内は近年、若手人材の管外流出が進み、地元企業の人手不足が顕著な状況です。こうした中、管内の高等学校には、地元に着し、地域の将来を担う人材の育成が強く求められています。

旧留萌千望高校ではこれまで、市内の各企業や団体等から活動支援を受け、課題研究等の学習活動を行うとともに、留萌市内の小・中学校と連携し、小学生向けの仮想地域社会におけるビジネス体験型イベント「キッズビジネススタウン」を生徒主体で運営するなどの活動を行ってきました。今後は地域連携の取り組みを、普通科を含む学校全体で教科横断的に実践する予定です。

これらの活動に際して、新たに地域の個人・企業・NPOによる民間支援組織の設立、留萌市の地域ビジネス創出事業の支援により、全国のSBP（ソーシャルビジネスプロジェクト）に取り組む高校との交流や講師によるワークショップも数多く行われるなど、一体的・継続的な支援体制が整ってきました。このような活動をおして、「ふるさと北海道」の未来づくりに取り組んでいます。



SBP 開発商品販売会（三重）

3 本校のPTA活動 「高校生と語るつどい」の実施

今年度、生徒と教員、保護者が混合グループをつくり、「三十年後の留萌高校はどんな学校になっていて欲しいか」をメインテーマに、4つのテーマについて、メンバーを入れ替えながら話し合う「ワールドカフェ方式で」意見交換を行いました。学校や地域の未来のために何をしていくべきかなどについて、活発な意見交換が行われ、生徒・保護者・教員が一丸となって新しい学校づくりに取り組んでいこうとする意識を深めることができ、実り多きものとなりました。



高校生と語るつどい事業